

農林水産物の生産等概況について

1 要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

2 現状・背景

—

3 概要

(1) 調査対象

卸売市場，出荷団体等

(2) 調査期間

令和3年6月～9月

(3) 調査結果

ア 気象概況

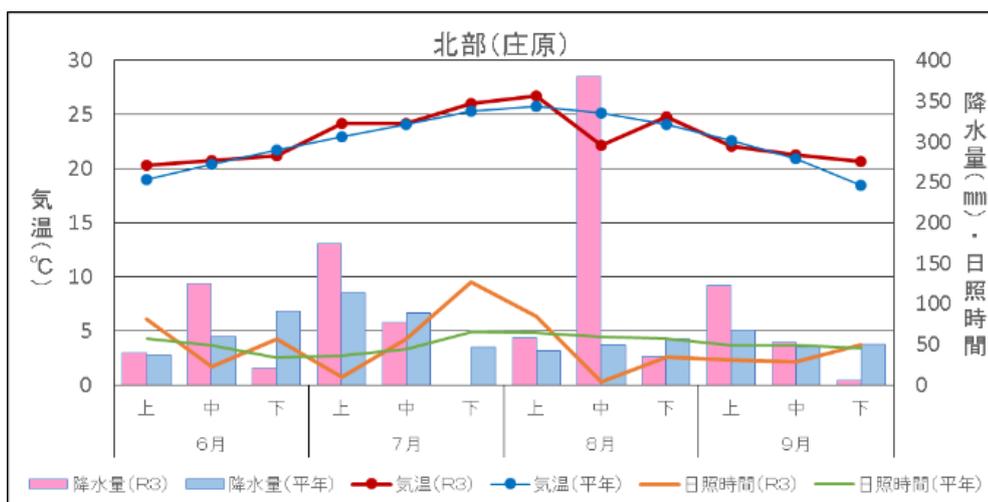
6月の気温は、南部・北部とも概ね平年並みで、6月の1か月の降水量は、北部で平年並み、南部では平年の約5割となった。

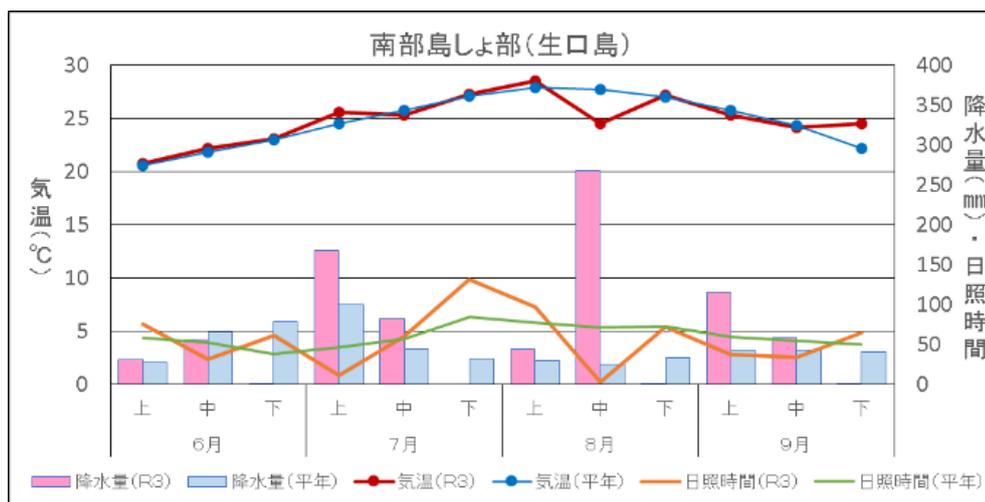
7月は、7日深夜から8日未明にかけて梅雨前線が活発になり豪雨となった。特に庄原市高野町等では、河川の氾濫による冠水被害（りんご，ほうれんそう，トマト等），農地の法面崩壊等の被害が発生した。

8月は、11日から25日にかけて前線が停滞した影響で雨が降り続き，広い範囲で農作物の冠水被害や栽培施設の浸水等が発生した。また，この期間は日照がほとんどなく，平年より気温が低くなったため，農作物の生育の遅延や，定植作業の遅れ等が生じた。

9月は，下旬に南部・北部とも晴天が続き，平年より2～3℃高い気温となった。

6月から9月の気温，降水量及び日照時間の推移





イ 農産物

(7) 普通作物の生産状況

a 水稲

【主食用米】

県内の主食用米の作付面積は約 21,700ha と、昨年より約 300ha の減少が見込まれる。

一方、非主食用米の作付面積は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴って需要が減少している酒米からの転換もあり、約 1,500ha と、前年から約 100ha の増加が見込まれる。

作柄は、全体のもみ数は平年並みであったが、登熟（実入り）は、8月中旬以降日照不足で推移し、いもち病の被害が拡大していることから、やや不良と見込まれる。

このことから、9月25日現在の作況指数は、98（北部 97・南部 100）となっている。

なお、米の取引価格については、全国の民間在庫量の高止まりや、今後の需要回復の見通しが不透明なことから、県産米においても下落傾向にある。

【酒造好適米（酒米）】

今年産の需要見込み量が昨年の約 6 割となったため、酒米の作付は、昨年から約 4 割減となった。

b 大豆

生育は、概ね順調であるが、一部地域において、7月の播種後の干ばつ及び8月の長雨で生育の遅れが生じている。

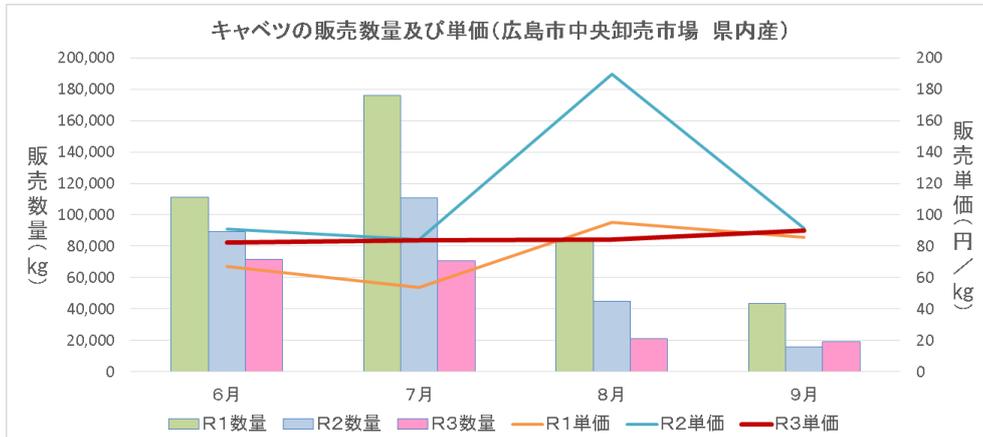
(イ) 野菜の生産状況

a キャベツ

庄原市や北広島町等、主に県北部で生産されたものが流通している。

7月、8月の降雨による湿害、病害による出荷量の減少や、大規模経営体が契約取引への転換を進めたことにより、市場での県内産販売数量は、大きく減少した。降雨による定植作業の遅れにより、10月にかけても販売数量の減少が続く見込みとなっている。

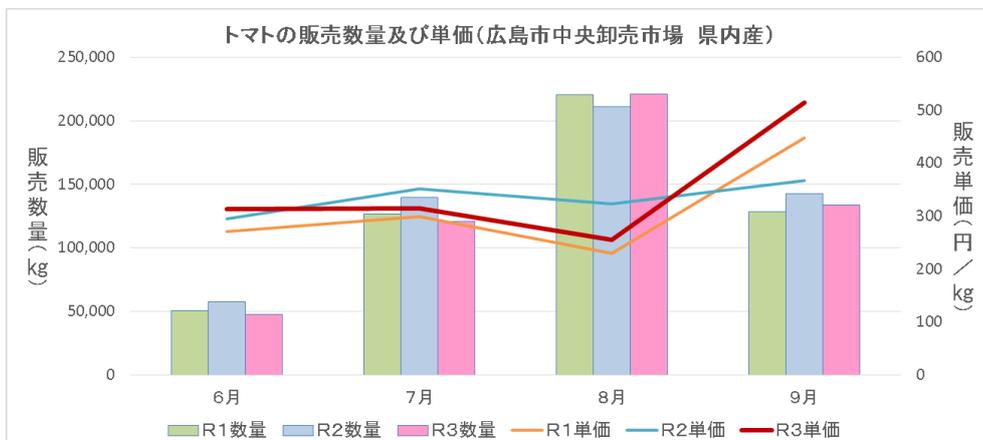
単価については、昨年8月、主産県（群馬等）からの供給が減ったため、平年の倍近い高値となったが、今年は、主産県の供給が順調で、概ね平年並みで推移している。



b トマト

神石高原町や庄原市、北広島町等、主に県北部で生産されたものが流通している。

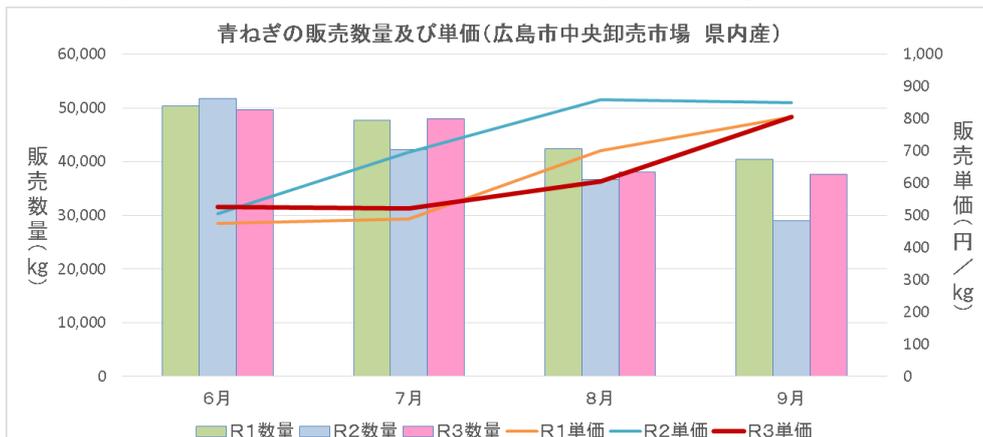
生育は順調で、6月から9月の販売数量及び価格は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける前の令和元年に近い水準で推移している。



c 青ねぎ

安芸高田市の養液栽培や庄原市等の土耕栽培のものが流通している。

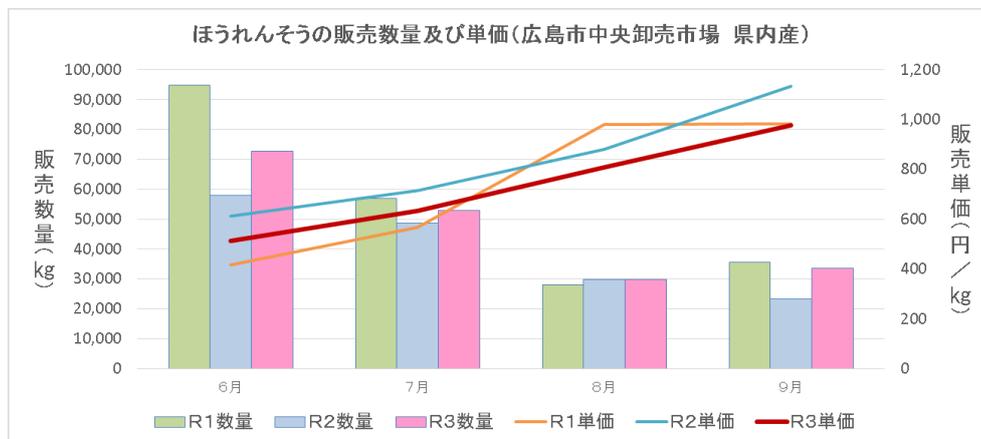
生育は順調で、一昨年に近い販売数量及び単価となった。



d ほうれんそう

主に庄原市や北広島町等の県北部で生産されたものが流通している。

生育は順調で、6月から9月の販売数量は前年より多く、単価は前年より安値で推移した。

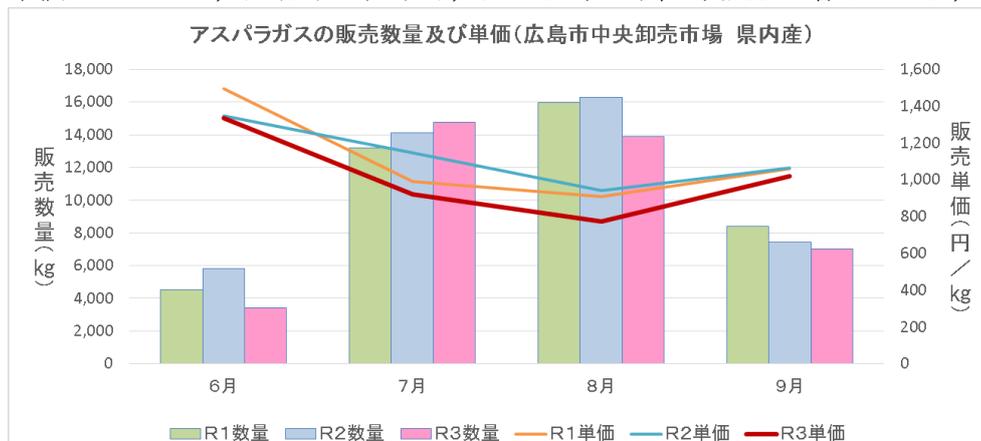


e アスパラガス

主に三次市や世羅町で生産されたものが流通している。

春の高温によって春芽の収穫が多くなり、株の消耗が大きくなったことから、6月の夏芽の収穫数量が伸び悩み、販売数量が減少した。8月以降は降雨・日照不足の影響で病害虫が多発し、販売数量が減少した。

単価については、太物率の低下や、曲がり等の下位等級品の増加により、低迷した。



(ウ) 果樹の生産状況

a うんしゅうみかん（JA広島果実連）

本県産のうんしゅうみかんは、10月4日から出荷が開始された。
9月上中旬の最低気温が平年より低かったことから着色が早く、出荷は前進傾向となっている。
果実は平年より大きく、糖度・酸度とも平年、前年よりやや低いと見込んでいる。
販売数量は、表年であることから、うんしゅうみかん全体で前年比130%の13,940tと見込んでいる。

b レモン（JA広島果実連）

ハウスレモンは、前年より約1か月早い6月15日から出荷が開始され、9月末までの販売数量は、前年並みの54tであった。
露地栽培のレモンは、10月4日から出荷が開始された。
年明けの寒波被害により樹勢が低下し、生理落果が多く発生したため、本年産の販売数量は、前年比84%の4,099tと見込んでいる。

c なし（JA広島果実連）

開花時期の低温被害によって着果不良となったことから、幸水、豊水ともに販売数量は前年よりも減少した。
全国的にも不作であったことから、9月上旬までの幸水では前年を超える販売単価となったが、9月中旬以降は高値であったために売れ行きが鈍り、豊水の販売単価は前年より安値となった。

d ぶどう（JA広島果実連）

ぶどう全体の販売数量は概ね平年並みで推移している。
生産拡大が続くシャインマスカットは、販売数量、販売単価とも前年を上回った。

e いちじく（JA広島果実連）

収穫期の降雨による腐敗ロスが多く、販売数量は前年より減少した。
軟化が早い等、日持ちの悪いものが店頭に出回ったことから、9月以降は売れ行きが鈍り、単価は前年並みとなった。

f りんご（JA広島果実連）

開花期の低温被害による着果不良に加え、夏の豪雨災害もあり、販売数量は大幅な減少を見込んでいる。

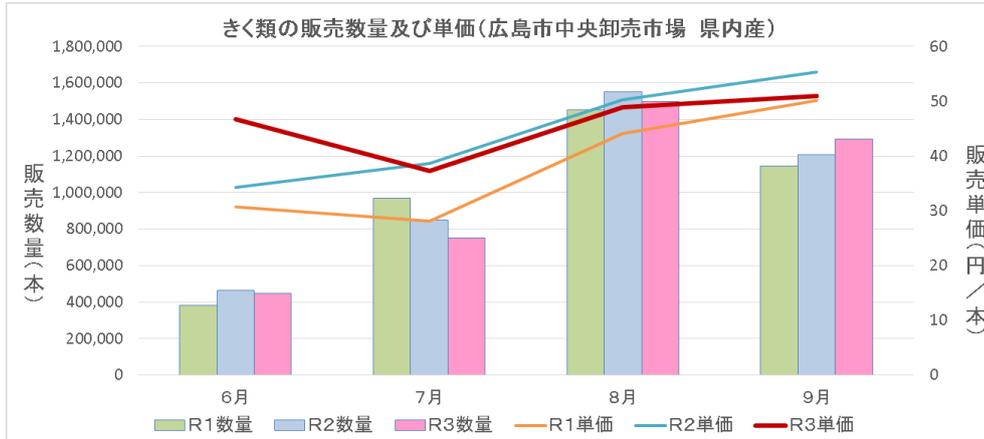
広島県産落葉果樹の販売状況（令和3年9月末までの累計 JA広島果実連扱い）

品目（品種）	販売数量			販売単価		
	t	前年比（%）	前々年比（%）	円/kg	前年比（%）	前々年比（%）
ぶどう（ピオーネ）	608	95	97	1,506	106	109
ぶどう（シャインマスカット）	205	110	125	2,211	109	121
なし（幸水）	199	74	48	465	109	133
なし（豊水）	246	91	56	467	95	141
いちじく（蓬萊柿）	179	76	65	1,034	101	114

(I) 花きの生産状況

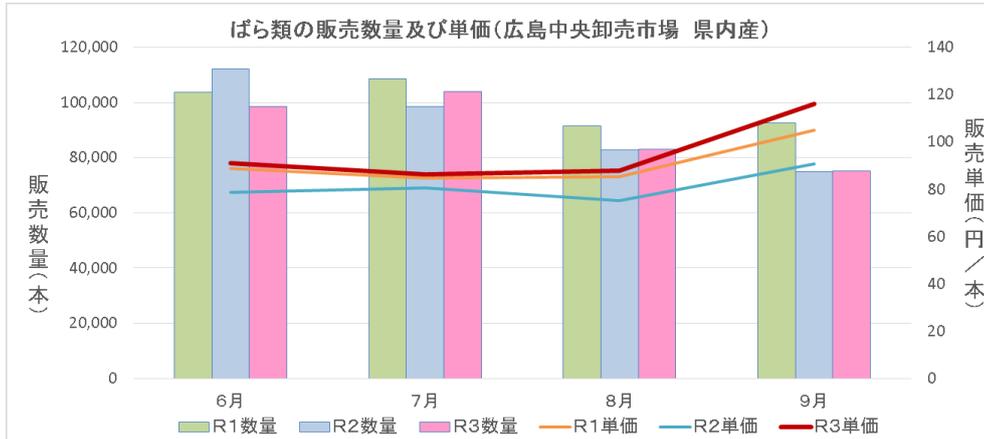
a きく（広島市中央卸売市場花き部）

生育は順調で、販売数量及び単価は概ね前年並みで推移している。



b ばら（広島市中央卸売市場花き部）

日照不足による生育不良により、品質への影響が見られたが、本年産はコロナ禍の影響で安値となった前年よりは高単価で推移し、令和元年と同程度の単価となった。



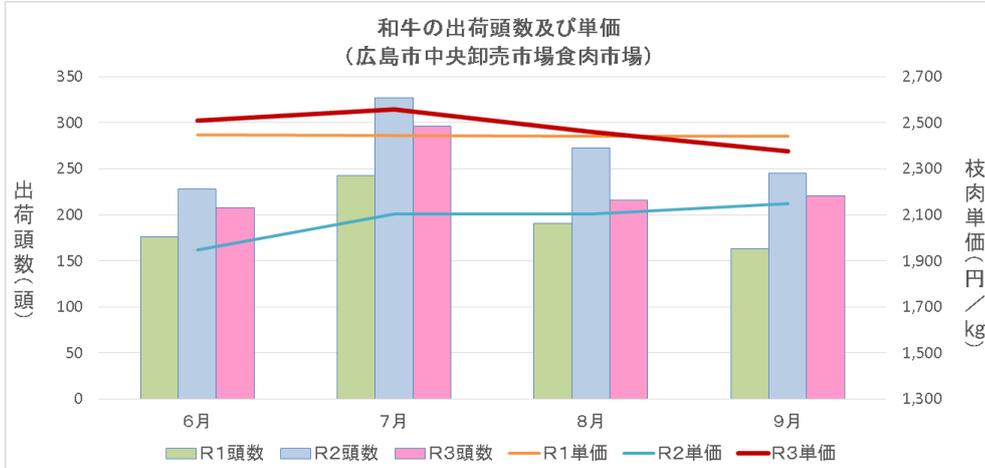
ウ 畜産物

(7) 和牛

出荷頭数は、6月から9月まで前年よりも1～2割下回って推移している。

枝肉単価は、令和3年に入り直近の9月まで前年を1～3割上回って推移している。

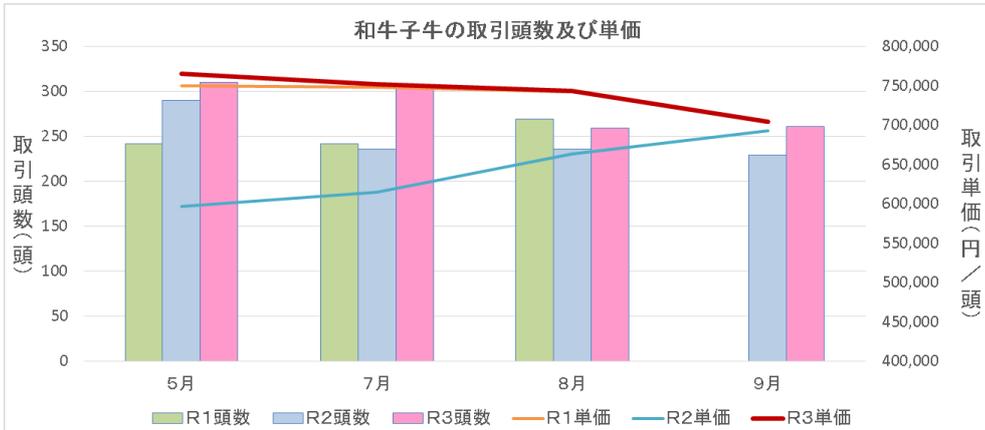
8月11日からの大雨の影響によりお盆需要が低迷し、8月の売上が減少した量販店がある。10月から飲食店の営業再開等による需要回復が期待されている。



※ 「食肉流通統計」(農林水産省)。直近月は、「食肉市況速報」((公社)日本食肉市場卸売協会) から引用。出荷頭数は全ての和牛(成牛)、枝肉単価は和牛去勢A4で何れも広島市中央卸売市場食肉市場。

(イ) 和牛子牛

子牛取引価格は、令和3年に入り直近の9月まで前年を上回って推移している。



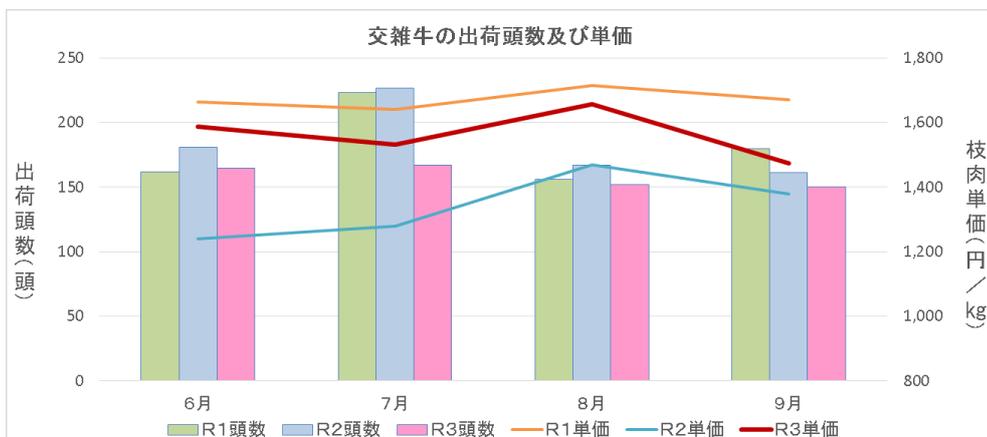
※ 「肉用子牛取引情報」(独立行政法人農畜産業振興機構)

9月のデータは速報値で全国農業協同組合連合会広島県本部

(ウ) 交雑牛

枝肉単価は、3月以降、前年より1割～3割高く推移している。（9月107%）

新型コロナウイルス感染症の影響により外食向けの需要が減り、量販店向けへの転換など物流が変化している。

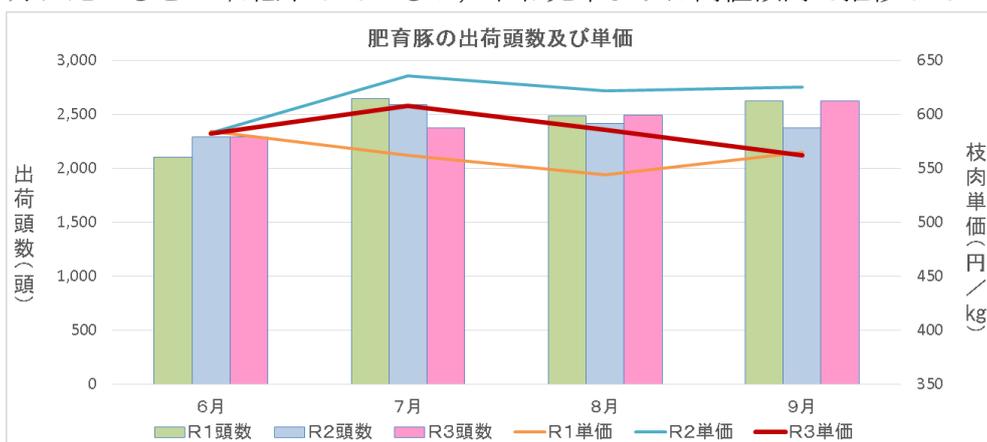


※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
出荷頭数は全ての交雑牛（成牛）、枝肉単価は交雑牛去勢B3で何れも広島市中央卸売市場食肉市場。

(エ) 豚

出荷頭数は月により増減はあるが、前年並みで推移している。

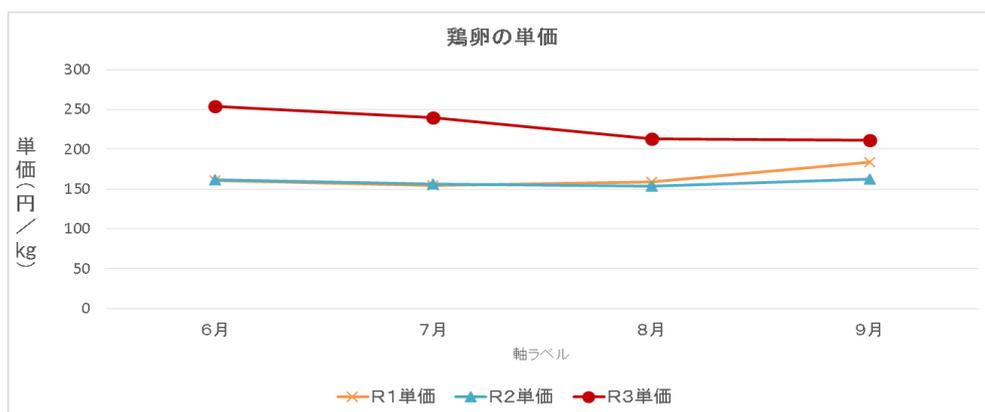
枝肉単価は、新型コロナウイルス感染症の影響により量販店での需要が好調であった昨年9月に比べると10%低下しているが、令和元年よりは高値傾向で推移している。



※ 「広島市中央卸売市場食肉市場」の県内産

(オ) 鶏卵（全農ひろしま M）

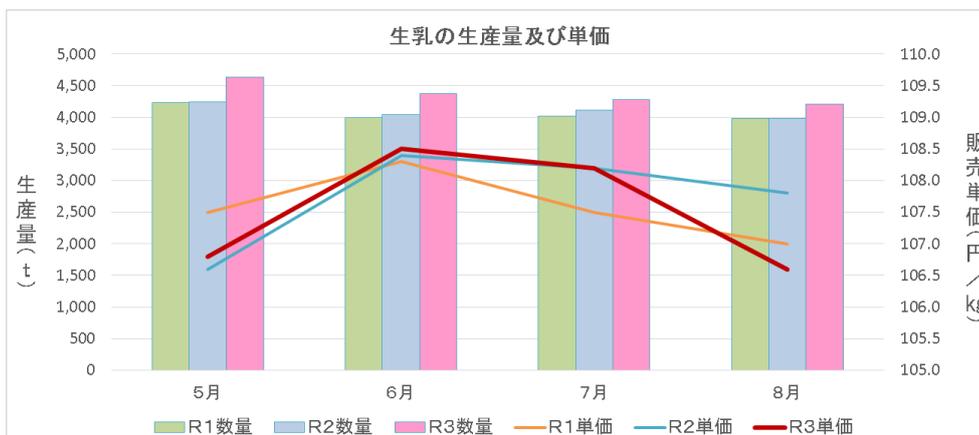
業務・加工用の需要が減少しているものの、巣ごもりによる家計消費の増加のほか、昨年の高病原性鳥インフルエンザの発生による生産量の減少から、9月の取引単価は前年同月比で29%高となっている。



※ 「全国農業協同組合連合会広島県本部」（M品の単価）

(カ) 酪農

乳価は、令和3年に入り前年並みで推移している。生乳生産量は、2月以降前年を上回って推移（102～110%）している。



※生乳生産量は、「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合開取りで手取り乳価。

(キ) 飼料

配合飼料は、米国のトウモロコシ産地の天候改善による収穫増への期待感からシカゴ相場が下落し、令和3年10月～12月期は前期に対し平均トン当たり1,250円の値下げ（全農系）となった。

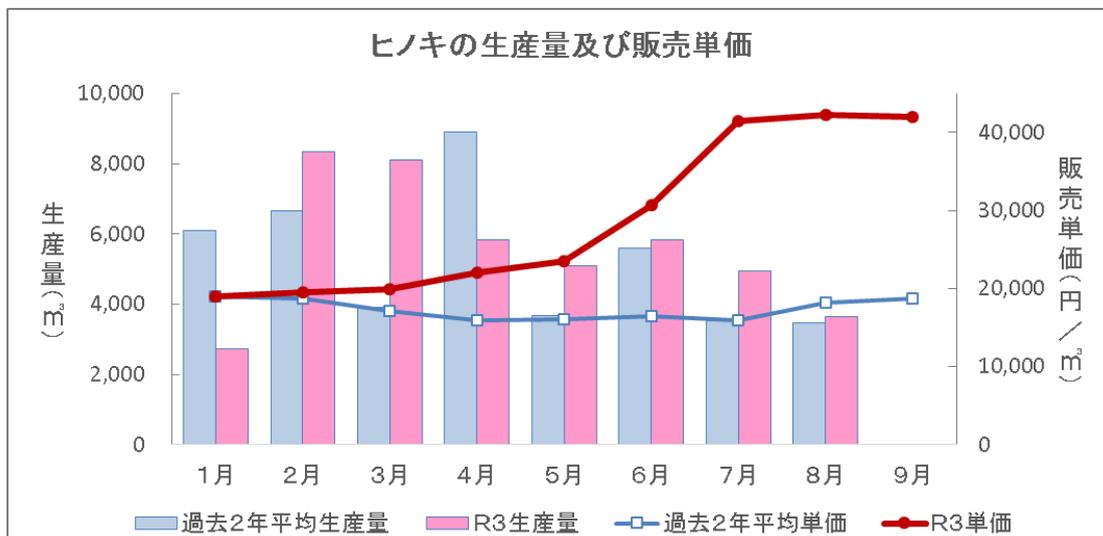
粗飼料は、米国の牧草産地の干ばつや米国内での需要の高まりから、価格は高止まりの状況にある。

エ 林産物

(7) 木材の生産状況

主に住宅の柱や土台に利用されているヒノキは、販売単価が、2月以降、輸入木材の価格高騰や品不足の影響により、高値で推移している。

また、生産量については、森林組合などが、製材工場等への安定供給を図り、品不足に対応するため、生産を増やしており、例年を上回る水準で推移している。



※生産量：県内の森林組合におけるヒノキの生産量（林業課調べ）

販売単価：広島県森林組合連合会三次共販所におけるヒノキの販売単価

オ 水産物

(7) 水温

9月上旬の県内海域の表層の水温は 25.4～29.3℃で、平年差は-1.1～+2.2℃であった。

海 域	広島湾	安芸灘	備後灘
9月上旬の水温	28.0～29.3℃	25.4～26.3℃	26.3～28.0℃
平年差	+1.8～+2.2℃	+0.2～+0.6℃	-1.1～+0.3℃

(4) 漁獲状況

a 取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物 14 品目の取扱数量は、マダイ、キジハタの 2 品目で平年を上回っている。一方で、多くの品目が平年を下回り、特に、タチウオは 2%，メバルは 14%，ガザミは 10%と大きく減少している。

b 取扱単価

県内産の取扱単価については、取扱数量が少なかった魚種を中心に、アナゴ、タコ、カワハギ等の 7 品目で平年を上回っている。（次表参照）

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況（令和3年8月）

品目	市場全体						県内産					
	数量			単価			数量			単価		
	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	54.5	110	121	563	79	62	18.4	124	165	450	87	64
アナゴ	21.7	80	65	1,898	124	104	1.2	123	75	2,412	122	143
タコ	19.9	49	46	1,277	146	118	5.8	40	34	1,374	159	124
タチウオ	16.6	134	66	1,241	101	108	0.2	47	2	1,386	55	123
カクチイシ	14.2	49	39	273	95	82	14.2	—	56	273	51	79
カワハギ	8.5	103	41	750	96	149	0.6	78	56	1,721	139	141
スズキ	6.6	78	48	1,043	115	91	1.8	50	48	705	159	81
ヒラメ	4.7	81	49	2,119	98	112	0.4	94	26	2,492	90	121
クロダイ	3.7	67	53	336	92	82	3.6	66	55	342	94	82
メバル	3.2	47	39	1,952	133	121	0.6	37	14	1,798	132	116
キジハタ	1.7	69	81	1,923	110	74	1.4	80	129	1,837	112	73
ガザミ	1.4	75	47	1,935	76	122	0.1	30	10	1,887	106	121
オコゼ	1.1	92	62	1,831	95	75	0.5	67	65	1,979	106	85
カサゴ	0.5	39	28	886	114	94	0.4	39	34	866	121	98

平年値は平成23年～令和2年の平均

c 煮干共販実績

6月中旬から出荷が始まった煮干し（いりこ、ちりめん）については、9月末現在、共販数量は平年を上回っているが、金額は平年並みであり、平均単価は平年を下回っている。

広島県煮干共販出荷実績（令和3年9月末現在累計）

区分	数量（t）	金額（千円）	平均単価（円/kg）
令和3年度 （平年比）	983 （118%）	759,764 （104%）	773 （88%）
平年	835	733,469	879

平年値は平成23年～令和2年の平均（9月末累計）

(ウ) 養殖状況

a かき養殖

かきの出荷は、平年並みの10月1日から順次開始され、身入りはやや遅れ気味、へい死は平年より少なく推移している。

b のり養殖

平年並みの10月1日から採苗が行われている。「乾のり」としての出荷は、12月下旬を見込んでいる。